

会議結果報告書

1	会議名	第1回戸別収集実験事業意見交換会（小出地区）
2	日時	令和7年7月2日（水）10:00～11:00
3	場所	小出地区コミュニティセンター 大会議室
4	出席者	（資源循環課）垣内課長補佐、八幡主任 （環境事業センター）森所長補佐、小田主査、角寄技能労務統括主査 （小出地区）参加人数：9人
5	内容	<p>資料に基づき、第1回戸別収集実験事業意見交換会を実施した。主な質問と意見は次のとおりであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ステーションの近くに住んでいるため雨の日などに便利になったが、その他の利用者はステーションから遠いところに住んでいる方もおり、その方は車でごみ出しをしているため、特に便利に感じていると思われる。 ● 収集職員の方は大変だと思うが、戸別収集になったことで責任感を持ってごみ出しをされるようになり良くなったため、戸別収集を続けて欲しい。 ● 草刈りをして発生した草の捨て方について、以前は2袋もしくは3袋までと聞いていたため、複数回に分けてステーションに出していた。戸別収集になり、自宅敷地内の保管場所に限りがあるため、まとめて出せると助かる。 → 基本的には、複数回に分けて出していただきたいが、収集職員に声をかけていただければ、収集状況によっては収集することも可能である。 ● 浜降祭に向けて草刈りを行い多量の草が発生する予定であるが、その際はどのようにしたらよいか。 → 自治会等の地域の活動で清掃活動を行う場合、別便で収集することも可能であるため、清掃活動前に環境事業センター業務担当までご相談いただきたい。 ● 以前は、里山公園の来園者がステーションにポイ捨てをして対処する必要があったが、今のところその必要はない。ごみが出されているところは、「ごみを捨ててよい」という認識を持たれてしまい、ごみを捨てられてしまうことがあったが、ごみがそもそも出されないため、ポイ捨てされなくなったのだと思われる。 ● 戸別収集実験事業説明会に来られなかった方が、ステーションに燃やせるごみを出していたが、声掛けしたらそれ以降出されなくなった。 ● 4月から6月ぐらいまでの間、ステーションに40ℓの指定袋が2,3袋ほど毎回出され続け、自治会の役員などで朝5時から立ち番をしていた。最終的には直接説明することができ改善された。戸別収集を今後進めていく場合、ステーションへのごみ出しに対する案内を徹底しなければいけないと思う。

- 戸別収集を全市に拡大するとなった場合、収集車両や収集職員を増加する必要があると思うが、どのくらい必要か試算しているか。
- ごみ有料化とあわせて戸別収集の実施を検討していた際に試算した結果、本市の収集体制に加え収集車両は25台、収集職員は50人必要となる試算をし、その分を民間の収集運搬事業者に委託した場合、約4億円要すると試算している。今回の戸別収集実験事業を通して、再度試算する予定である。

- 過去に4億円ということであれば、人件費高騰などにより、増加する見込みか。
- 実際に戸別収集を実施してみて、以前想定していたほど収集車両や収集職員が必要でないとなる場合も考えられるため、現時点では何とも言えない。

- 以前、藤沢市に住んでいたこともあるため、戸別収集を継続していただきたい。戸別収集を実施することで収集職員の雇用も増えると思う。

- 戸別収集を実施することで収集車両を増やさなければならないとなると、環境面への負担が生じると思う。電気自動車の収集車両を導入することができれば、少しは違うと思う。

- ステーションまでごみを運ぶことができない方を対象に実施している戸別収集に関する案内を積極的に行い、利用を促し、ステーションまでごみを運ぶことができる方はステーション収集でもよいと考える。

- 高齢化が進み高齢者が増えているため、戸別収集を行っていただきたいと考えている。今後の見通しはあるか。
- 戸別収集実験事業を実施し、戸別収集の影響や効果を確認し、今後の進め方を検討する予定である。

- 意見募集用紙に掲載されている二次元コードは、以前、自治会長宛に送付いただいた案内に掲載されている二次元コードと同様か。
- そのとおりである。

- 今回は第1回の意見交換会であるが、第2回の意見交換会の実施も予定しているか。
- 10月に第2回の意見交換会を実施する予定である。

以上